H30/2/10　JTTAスプリングカンファ2018

CPAP 遠隔モニタリング
～遠隔診療に初の診療報酬化～

吉嶺　裕之

社会医療法人春回会　井上病院

キーワード：CPAP アドヒアランス、遠隔モニタリング、睡眠呼吸障害

現代の日本において睡眠呼吸障害（Sleep disordered breathing : SDB）罹患患者は 300 万人以上と予測されている。中等症以上の SDB の治療として持続陽圧換気療法（Continuous positive airway pressure : CPAP）が第一選択とされ、その治療にて自覚症状の改善、合併症の予防効果、予後の改善が期待できる。しかし、CPAP 療法は対症療法であるがため、その使用においては高いアドヒアランスが求められる。

昨今日本においても遠隔モニタリングシステムの導入がなされた。本システムは、CPAP に取り付けられたモデムより、自動的に CPAP の作動状況が企業のサーバーに送られ、医療機関および CPAP 企業において主治医や企業の担当者はその治療状況を把握することができ、治療早期からトラブルシューティングを行うことが可能となる。また本システムを導入することで、CPAP 療法に関する外来対面診療間隔を延長しつつ、治療アドヒアランスを維持できることが期待される。

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金事業において、CPAP 診療を行っている専門施設における遠隔モニタリングの診療実態及び意識調査や、遠隔モニタリングシステム導入による CPAP アドヒアランスの変化を検討する多施設共同無作為化比較試験が実施され、遠隔モニタリング導入の手引案が作成された。

このような中、現在中医協において、平成 30 年度診療報酬改定に向けて、遠隔 CPAP モニタリングによる管理についての評価の見直しが検討されている。

超高齢社会に突入し、専門医の偏在化により、専門医療機関へのアクセスは困難となり、新たな医療の提供方法が求められている中、このような CPAP 遠隔モニタリングおよび遠隔診療はその解決モデルの一つとなりうるかもしれない。